

令和7年度 海老名高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況 ※（ ）内は実施時期と担当G
法令遵守意識の向上	教育公務員としての倫理意識の向上を目指し、事故を未然に防止する。	○職員として、公務内外において常に高い倫理観を持って自身の行動を律するよう不祥事（わいせつ事案等）防止を徹底した。 ○資料を活用した研修を実施し、職員の意識を高め、法令順守意識の強化に繋げた。（2月、副校長） ○職務専念義務免除、営利企業従事等許可、兼業・兼職の手続と合わせて、服務等に関する手続について、資料を活用した研修を実施した。（8月、副校長）
職場のハラスメント（パワハラ・セクハラ、マタハラ等）の防止	パワハラ、セクハラをはじめとする職場のハラスメントの問題について理解を深め、未然に防止する。	○資料による自己点検を含む研修を行い、職場のハラスメント防止を図るとともに、適切なコミュニケーションやミスの少ない職場環境の整備ができているかを確認した。（1月、副校長 3月、初任者）
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為を未然に防止する。	○資料を活用した研修を通して、自分事であるという意識を職員に喚起させて、不祥事防止に取り組んだ。（5月、生活支援） ○セクハラアンケートを実施し、現状を把握した。（7月と12月、教頭） ○周囲の目の行き届かない場での生徒指導を禁止し、管理職による日常的な校内巡視を行った。
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重した指導により未然に防止する。	○資料を活用した研修を実施し、生徒の人権に配慮した指導に配慮する職員の意識を喚起した。（7月、生徒会） ○体罰アンケートを実施し、現状を把握した。（12月、教頭）
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理、進路関係書類について、各マニュアルに準拠することを徹底するとともに、ヒヤリハット事例を共有することで事故を未然に防止する。	○入選業務開始前に、職員全体で入学者選抜の事故防止研修会を行い、注意喚起を徹底した。（12月、入選委員会） ○入選マニュアルを確実に読み合せ、事故ゼロのために入選業務の職員全体の共通理解を徹底した。（1月、入選委員会） ○適正な定期試験や成績処理の実施に向け、資料を活用して基本的な注意点を再確認した。（6月、学習支援） ○学期末の成績処理に関するマニュアルを作成し、職員への周知を徹底した。（9月と2月、学習支援） ○調査書作成について、3学年職員等関係職員を対象とした職員研修会を実施した。（7月、進路支援） ○調査書等の作成・発行及び進路業務に関するチェック体制を確認し、適正な執行を行った。（7月、進路支援）

個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	情報の管理方法を確認し、個人情報の流失を未然に防止する。	○個人情報の取り扱いに関して、対策重要度を理解した上でルールの徹底を図った。(4月、広報) ○資料を活用して点検を実施し、個人情報保護に対する職員の意識の向上を図った。(9月、広報)
交通事故防止・酒酔い、酒気帯び運転の防止、交通法規の遵守	交通事故の発生、酒酔い・酒気帯び運転を未然に防止する。	○資料を活用して点検を実施し、飲酒運転の防止や交通安全に対する職員の意識の向上を図った。(11月、教頭)
人権や生徒への影響を配慮した生徒指導	生徒指導、教育相談などで人権に配慮した対応をする。	○生徒と対応する際、不用意な態度や発言で生徒を傷つけないよう職員が人権感覚を磨いた。
会計事務等の適正執行の確保	会計の処理においてマニュアルに沿った適正な執行を徹底する。	○財務事務調査指導の指導結果や資料を活用して、私費会計事務の具体的な執行事務について点検を実施した。(10月、学校管理) ○公費については、会計局作成の会計事務手引を担当者に配付し、研修を通じて執行手順を確認するとともに、手順どおりの執行がなされているか日々複数の目でチェックした。 ○公費については、四半期ごとに教育委員会リスク一覧のうち「財務」に係るリスク対応策に取り組んだ。(6月、9月、12月、2月、事務室) ○私費については、私費会計に関する手引を担当者に配付し説明会を開催する。執行状況や会計手続きなどの内容把握を徹底した。(4月、7月、9月、1月、3月、学校管理) ○部活動費については、顧問会議等を通じて部費に関する出納帳、領収証の保管を徹底し、徴収・決算報告について保護者あての通知について様式を整え、適切に行うよう徹底した。(4月、8月、2月、学校管理)

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

全職員が不祥事防止を自分事として捉えることができるよう、各グループに関係の深い課題の研修担当を割り振り、管理職だけでなく一般の職員が講師役となることで、主体的な研修となるように心がけた。それぞれの担当業務に精通した講師役の職員が、自身の知見や経験を含めた話をしながら、不祥事を引き起こすリスクや留意すべきことを明確にすることで、高い研修効果と職員の意識向上をもたらした。今後も、不祥事を起こさないという強い意識を持つよう、職員に対して継続的に呼びかけることが必要であり、互いの声掛けによって職員間のコミュニケーションを活性化させ同僚性を高めることで、不祥事の未然防止と早期発見に繋げていく。また、仕事上のミスをすぐに周囲の職員や管理職に相談・報告できるような風通しの良い職場づくりを引き続き目指すことで、不祥事が発生するリスクの軽減と再発防止を図っていく。